

■事前仮説の設定(案)について

～長期総合計画に示した将来都市像～

実り豊かな生活文化都市

- ・5つのまちづくりを基本政策に掲げ、まちの将来像を「実り豊かな生活文化都市」として、このまちすべての人が豊かで実りある生活ができるまちづくりを目指します。
- ※「賑わいと交流の生まれるまちづくり」「安心で健やかに暮らせるまちづくり」「誇りと愛着の持てるまちづくり」「安全で快適な住みやすいまちづくり」「市民参加による協働のまちづくり」

<鉄道・広域路線バス>

- 中心・都市機能集積拠点や地域拠点などと、市外を接続する役割を担います。
- ・基本的には維持していく方向としますが、利用状況等により、一部再編を検討します。
- ・2027年にリニア中央新幹線が開業予定となっており、広域交流拠点が整備される予定のため、中心・都市機能集積拠点や地域拠点などと広域交流拠点を接続する新たな広域路線バスの運行について、交通事業者と連携して検討します。
- ・鉄道については、昨今、JR 東日本において各路線の利用状況が公表され、今後の方針が示されているなど、取り巻く環境が変化していることを踏まえて、JR 身延線の維持に向けて利用促進策などを展開していきます。

<路線バス・コミュニティバス>

- 中心・都市機能集積拠点や地域拠点などの拠点間を接続する役割を担います。
- ・利用状況の分析を行い、利用が少ない区間については、効率化を検討し、一方で、人口が多く居住しており、需要が見込める区間については、充実化を検討するなど、利便性向上と効率化の両立につながる再編を行います。
- ・特にコミュニティバス（とまチュウバス）については、車両1台で長距離を運行していることで、1日あたりの運行本数が少なくなっている状況を踏まえて、運行距離や運行本数などの再編を検討します。

<新たなモビリティ>

- 市内の各地域から中心・都市機能集積拠点や地域拠点などに接続する役割を担います。
- ・路線バスやコミュニティバスではカバーしきれない交通空白地域、路線バスやコミュニティバスの再編により効率化するエリア等の運行を検討します。
- ・昨今、AI デマンド交通などの新たなモビリティの取組が広がっている中で、中央市の地域特性に合った、新たなモビリティの導入を検討します。
- ・新たなモビリティについては、市内在住者だけでなく、観光客などの来訪者も利用できる仕組みを検討します。

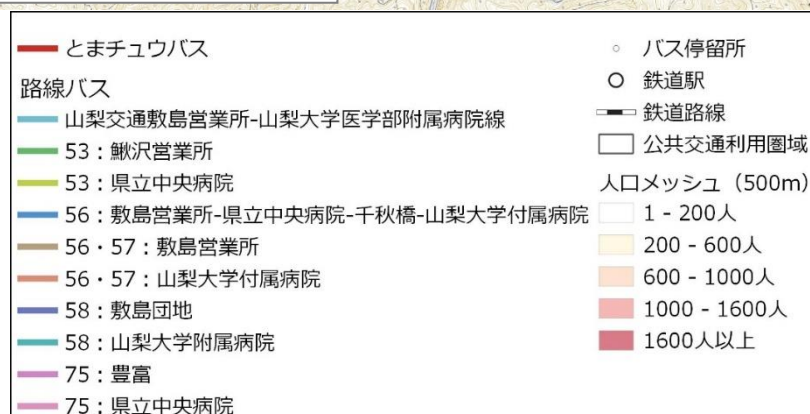
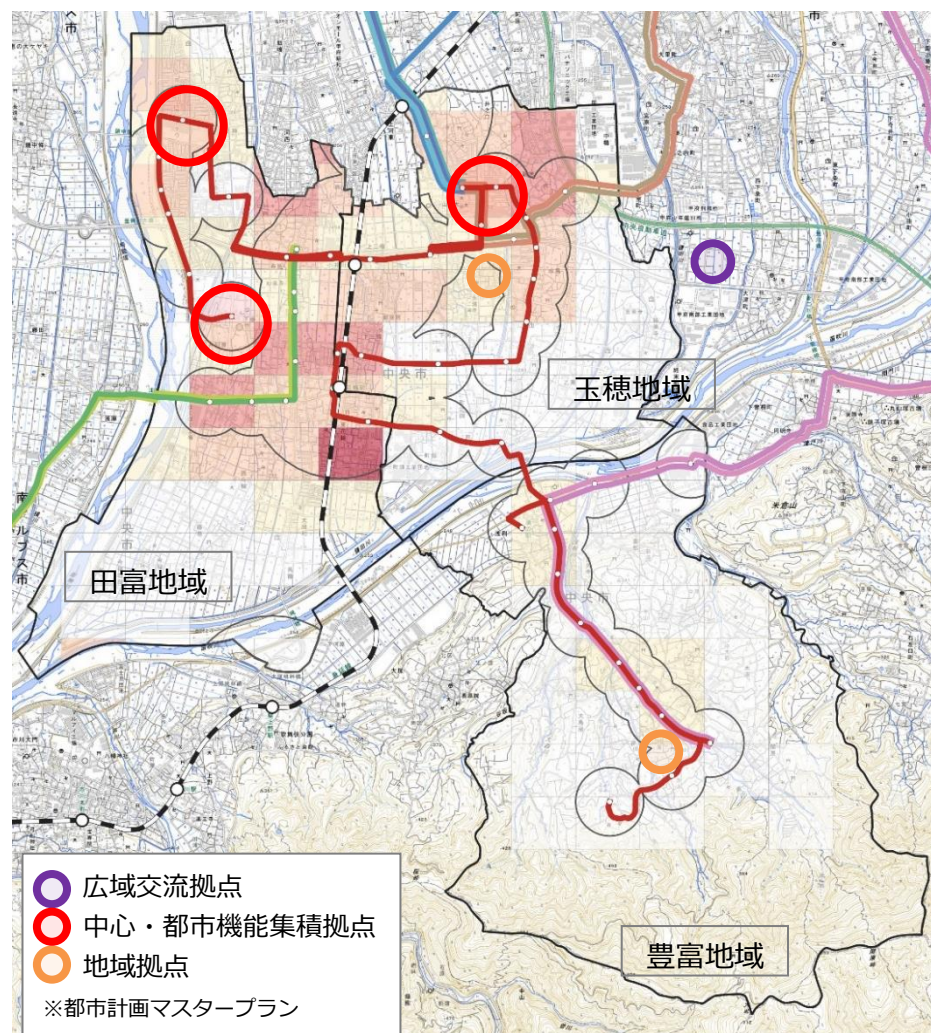
<乗用タクシー>

- 市内の各地域から中心・都市機能集積拠点や地域拠点などに接続する役割を担います。
- ・引き続き、他の公共交通ではカバーしきれないエリアや時間帯をカバーします。
- ・また、新たなモビリティを導入するほどの需要が見込めないエリアについては、タクシーとの連携を検討します。

～中央市地域公共交通計画の基本理念：目指すべき将来像と公共交通が果たすべき役割～

『誰もが利用しやすく移動しやすい仕組みづくり』の実現

- ・目指すべき公共交通の将来像は、以下の4つの考え方にに基づき、位置づけます。
- 「交通弱者」の救済
- 「交通空白地域」の解消
- 「広域的な視点」によるネットワーク構築
- 「実現可能」で「持続可能」な公共交通



<利用促進>

- ・公共交通の再編や ICT 化の導入等により、利用しやすい環境を整備するだけでなく、積極的に公共交通を利用してもらうように利用促進を行います。
- ・高齢者や学生などの交通弱者を対象とした公共交通の利用案内（ガイド）の強化、高齢者を対象としたスマートフォンの使い方教室、公共交通を利用したモデルツアー、公共交通の沿線施設と連携したタイアップ企画などの取組を検討します。

※新たなモビリティとは、小型モビリティ、ライドシェア、カーシェアリング、自動運転、BRT（電車と同等の輸送力を有し定時性と速達性が優れた交通システム）、LRT（低床式車両による乗降の容易性、定時性や速達性が優れた軌道系交通）など、昨今の ICT の発展や技術開発により出現している新しい交通モードや交通サービスのこと。

※AI デマンド交通とは、AI（人工知能）を活用した効率的な配車により、利用者予約に対し、リアルタイムに最適配車を行うシステムのこと。